

【出題意図】

社会で起きている問題一つの視点からだけではなく、複数の政策的視点から、さらには様々な政策規範を尊重し、議論を重ね、我々自らが解決に向けて取り組む必要がある。総合政策学部では、様々な学問領域の基本を学び、それらを応用し、社会問題を解決しようとする思考プロセスを重視する。今回の入試問題は、「幸福度」と「公共政策」に着目し、政策科学に内在する本質的な課題を通じて、総合政策学部生として期待される語学力、理解力、文章力の有無を確認することを目的に作成された。

- 1 本問題では、英語文全体の読解力を問うている。また、本問題に通底する人々の「幸福」を議論するうえで、その一つの問題をパラドックスという視点から提起し、更なる質問へとつなげる。
- 2 本問題では、幸福度のパラドックスをヒントに、文章全体に内在する筆者の意図を理解できるか否か、すなわち解答者の読解力を問うている。
- 3 本問題では、解答者の資料判断力、計算力の確認を問うている。
- 4 本問題では、既出題から得られる示唆を解釈する力、幸福度達成のために政府が関与すべきか否かといった規範的問題を自らの言葉で事務からの意思を表現させることで、自らが主体的に考える力、意見を持つ力といった意味での創造的構想力、そして600字といった比較的長い解答文章を求めることによる文章力、以上3つの点から解答者の総合力を問うている。

【解答例と採点基準】

- 1
 - (1) 衣食住がより豊かになり、私達はより多くの車を持ち、より大きな家に住み、より多くの家が集中暖房装置を備え、より多くの休日を海外で過ごし、労働時間はより短くなり、より良い仕事に就き、そしてなによりも、より健康になっている。しかし、私達は以前に比べて幸福であると感じない。
 - (2) paradox
 - (3) しかし、政府の政策を再考し、個人の選択や人生観（人生哲学）を再評価するに十分な多くの根拠がある。
 - (4) 私達は、社会的存在として、かつ、内面の精神性という観点から、どうすればより良く生きられるかという新しいビジョンを作ることができる。

採点基準：

- (1) ・比較級を理解している。
 - ・ above all を正確に訳出している。

- (3) ・ enough がどこにかかるかを指摘できる。
- (4) ・ as を前置詞（「～として」）と把握している。
 - ・ in terms of を正確に訳出している。

配点：それぞれ 20 点

2

経済的な豊かさや地域ネットワークなど、いろいろなことが我々の幸福を後押ししてくれるのだろうが、大切なことは、何が幸福かを定める権利を誰が持っているかということ（79 文字）

配点：20 点

採点基準：筆者の伝えたい意図を文脈から、的確に読み取っていること。

3

- (1) 仕事と個人の余暇の時間をバランスよく過ごし、日々健康で文化的に充実した生活を送ること（42 文字）
- (2) 勉強をする場所が十分に提供されておらず、しっかりとした教育を受けることができないこと（42 文字）
- (3) 0. 8 0 5

配点：(1) (2) はそれぞれ 20 点、(3) は 10 点

採点基準：正確に図表を解釈し、記述されていること。正確に計算があっていること

4

私は、幸福度の達成を目的とした政策を政府が積極的に起こさうべきと考える。現代社会においては、資料 (A) のように、経済的に豊かでも決して幸福に感じない人々も増えてきている。それは、経済的に困っていても、地域の助け合いや人々の心の豊かさに機会がたくさんあり、日常のありきたりの生活の中から幸せを感じる人々が増えてきているからだと考える。それらは資料 (C) が示す GNH 指標の多様さからも理解できる。そうであるなら、経済的な問題のみならず、近所の人々との人間関係を豊かにするようなことも、個人だけの問題ではなく、社会全体で解決すべき課題として取り扱う必要がある。もちろん資料 (D) のように、個々人の幸せの考え方を政府が管理し、それを国民に押し付け、国民がそれを認めるとなると、結果的に、国家によって個人の考えがコントロールできることになる。また個人の幸福に対する責務が個人にあるとするなら、誰かの幸福のためになされる政策によって誰かが不幸せになってしまうのは奨励さ

れることではないと考える。また、資料 (B) のように、社会の仕組みが幸福度を左右するという現実がある。しかし、我々自らが幸福とは何かを、しっかりと責任をもって考え、また政府も我々の総意を尊重し、そして我々が、政府が過度に干渉しないよう十分チェックするようにすれば、政府は、国民の幸福度を達成できる政策を、国民のために推進することができるはずである。(599 文字)

配点：100 点

採点基準：・幸福度と政府の関係について、自分の考えが論理的に記述されていること

- ・自らの主張について、その根拠が資料①から③に依拠していると加点
- ・自らの意見と異とする意見について自分の意見を述べていると加点